



ネイチャーセンターだより

2026年9・10月号

新・いきもの図鑑



【参考文献】

Johnson et al. 2012. New Insight concerning transoceanic migratory pathways of Pacific Golden- Plovers (Pluvialis fulva) : the Japan stopover and other linkages as revealed by geolocators. Wader Study Group Bulletin 119: 1-8

ムナグロ（チドリ科）

春は5月ごろ、秋は8～10月ごろに飛来する^{わた}渡り鳥です。夏羽では顔から^{はら}腹にかけて黒く、頭から^せ背にかけては黄褐色と黒のまだら模様、冬羽では腹側も黄褐色になります。ハトより一回り小さいくらいの大きさで、チドリの仲間の中では大型です。

アメリカの研究者らが本種の^{わた}渡りを調べると(Johnson et al. 2012)、アラスカのノームで繁殖する個体は秋にノンストップで太平洋を^{わた}渡り、太平洋中南部の^{とうしよ}島嶼で越冬、春は北西に進んで日本を中継し、北東に進んで繁殖地に戻ることがわかりました。一方、サイパンで越冬する個体は日本を^{ちゆうけい}中継して、直行またはアラスカ経由でロシア極東の繁殖地へ^{わた}渡り、秋は春と同じルート、もしくはアラスカに引き返して太平洋を横断し、サイパンへ戻りました。日本でのムナグロの^{こたいすう}個体数は秋より春の方が多いたことがわかっていいますが、春国岱では秋の方が観察が多く、サイパンで越冬する^{こたい}個体の^{ちゆうけいち}中継地になっているのかもしれません。いずれにせよ、ムナグロの^{わた}渡りの^{ちゆうけいち}中継地として日本は重要な場所となっています。

命をいただく

去る7月14日早朝、ネイチャーセンターの窓から春国岱を眺めると、根室湾側の干潟に昨日まではなかった大きな塊^{かたまり}が目飛び込んできました。大きなゴミが漂着したのだらうと双眼鏡で観察してみると、なんと海獣の死骸でした。

開館後、春国岱に向かう用事があったためその足で確認してくると、体長3m以上もある^{いじよう}トドでした。すでに海を^{ただよ}だいて漂ってきたようで、体を覆う毛皮の一部がはがれ^{ぶあつ}分厚い皮下脂肪が露出しています。冷たい海の中でも体温を逃さず、防寒対策の機能を果たしているその体の仕組みを目の当たりにし^{おどろ}驚きました。

このまま置いておけば、様々な生きものの貴重な食料源になるのですが、同時にヒグマを呼び寄せることにもなってしまうため、関係機関と調整して撤去してもらうことにしました。撤去されるまでの数日、キタキツネをはじめオジロワシ、カモメの仲間、カラスの仲間がトドの肉を食べにやってきました。時には互いをけん制しあったり、誰かが美味しそうなどころまで食べ進んでくれるのを待っているようだったり。一つの命をみんなで分け合う、そんな様子をしばらく観察することができました。

NEWS



▲漂着したトドの死骸



▲トドを食べに来たキタキツネとハシボソガリス

見どころMAP



- 観察路(ヒバリコース 1.2km、約 25 分)
- 観察路(ハマナスコース 1.4km、約 30 分)
- 観察路(キタキツネコース 0.8km、約 20 分)
- 観察路(アカエゾマツコース 0.5km、約 15 分)

- 観察路(小鳥の小道 1.4km、約 30 分)
- 作業路(春国岱上は自転車を含む車両進入禁止)
- 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)
- 東梅野鳥観察舎(東梅ハイド)

9・10月の見どころ予報

- 凡例
- ◎ ぜったい見られる(と思う)
 - ちょっと気をつければ見られる
 - + よく気をつければ見られる
 - ・ めったに見られない

オジロワシ オオワシ		○	オジロワシは樹上や消波ブロック上に止まっていたり、干潮時には風蓮湖や根室湾の干潟に降りていたりします。オオワシは例年、10月下旬ごろに飛来します。(昨年は10月21日に初確認)
タンチョウ		○	春国岱周辺の湿地や干潟などで見られます。アオサギの群れに混ざって休息していることもあります。
シギチドリ類		+	9月下旬頃まで、干潮時に春国岱湾の干潟や根室湾の干潟で採食の様子が観察できます。過去、9月によく観察されたのは、メダイチドリ、ミヤコドリ、ホウロクシギ、キアシシギ、トウネンなど。
オオハクチョウ		+	昨年は10月7日がシーズン初確認でした。春国岱のほか、東梅ハイド、温根沼大橋周辺、道の駅スワン44ねむろから観察できます。
カモ類		○	9月上旬頃から渡来します。最も数が多いのはヒドリガモとオナガガモで、マガモ、ハシビロガモ、コガモなども少数見られます。10月には根室湾や風蓮湖にクロガモやウミアイサも見られるようになります。
春国岱	野鳥		9月中旬以降、草原や湿原にはタヒバリが見られるようになります。
	花		9月はウラギクなどの花やイワツツジの紅葉が見られます。木橋やキタキツネコース周辺ではアッケシソウが紅葉し始め、10月中旬ごろまで見られます。
自然 学習林	野鳥		ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、キツツキ類(アカゲラ・コゲラ・オオアカゲラ)が見られます。
	花		9月にはエントリカブト、ゲンノショウコ、ミゾソバ、ナギナタコウジュ、サラシナショウマなどの花が見られます。
	紅葉		ツタウルシ、ヤマブドウ、シウリザクラなどが紅葉し始めます。
危険生物			エゾイラクサ・ツタウルシには、さわらないようにご注意ください。 9月はまだ蚊やマダニなどの虫が活動しています。虫よけ剤の塗布をおすすめします。

春国岱の外来植物の駆除をおこないました

根室を代表する自然の宝庫の春国岱ですが、ときには招かざる生きものもいます。それは外来種といわれる動植物たちです。外来種とは、その生き物が元々生息していた場所を離れ、人との関わりによって元々いなかった場所に意図的または偶然に持ち込まれ野生化した生き物のことを指します。その場に適応できれば生息域を広げていき、外来種の定着によって、地域固有の生物相が損なわれる可能性もあります。

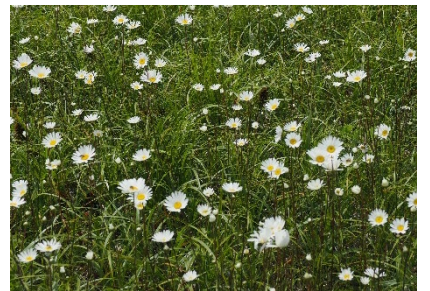
そこで、6月から8月にかけて春国岱で外来植物のオニハマダイコン、フランスギク、アメリカオニアザミを駆除する活動を行いました。

オニハマダイコンはアメリカ東海岸を原産とする海浜植物で船のバラスト水に紛れて国内に侵入したと考えられています。6月27日に日本生命保険相互会社釧路支社の皆さま16名のご協力により70Lゴミ袋89個分を、7月11日には根室ワイズユースの会主催の活動で集まった49名の方たちが同ゴミ袋150個分を駆除しました。また、7月の活動では終了後に有志によるフランスギクの駆除も実施しました。フランスギクはヨーロッパ原産で、江戸時代に観賞用に持ち込まれました。根室の街中でも6月ごろからいたるところで花を見かけ、空き地がフランスギクのお花畑のようになってしまっているところもあります。春国岱では、ヒバリコースの草原の一角にまとまって咲いているところがあり、100株以上を根から抜き取りました。さらに8月には、レンジャーがアメリカオニアザミの駆除をしました。こちらもヨーロッパ原産で牧草の種子や家畜の飼料に混ざって移入したと考えられています。茎や葉にある鋭いとげは厚手の手袋をも突き破るほどです。ヒバリコースやキタキツネコースの草原で点々と十数株がまとまって生えており、タネを飛ばす前の花やつぼみをハサミでひとつずつ摘み取る作業を行いました。

これらの外来植物は一度の駆除ですべてを取り除くことは難しく、ここに紹介した方たちのご協力のもと、毎年地道に活動を続けています。



▲海岸草原を埋め尽くす勢いのオニハマダイコン



▲フランスギク。近くにはよく似た在来種シカギクも咲いていた。



▲鋭いとげをもつアメリカオニアザミ

春国岱ワイズ

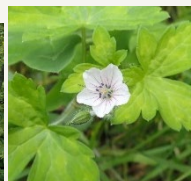
8月下旬になると、東梅自然学習林(小鳥の小道)では紫色の花が観察できます。エソトリカブトという植物で、花から根まで、すべての部分に非常に強い毒をもつ植物です。スイセンやスズラン、ニチニチソウ、ジャガイモの芽など、じつは園芸植物や野菜にも毒のある植物はあります。動物のように動いて逃げることができない植物は、毒を持つことで外敵から体を守っているのです。これらの毒は怖いものである一方、その毒が薬の成分として活用されることもあり、必ずしも人に害があるばかりではありませんが、毒のある植物を知ることは身を守ることに繋がります。小鳥の小道で見られる次の植物の中で、毒の「ない」植物をすべて選んでみましょう。



▲エソトリカブト



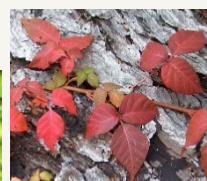
①バイケイソウ



②ゲンノショウコ



③シコタンキンボウゲ



④ツタウルシ



⑤ハンゴンソウ

イベント情報

【申込・問合せ】春国岱ネイチャーセンター
電話:0153-25-3047
E-mail:nemu_nc@marimo.or.jp



◆ 9/19～23 マップで楽しむ秋の春国岱ウォーク

特別マップをもとに参加者ご自身で散策を楽しむイベントです。
秋の春国岱ならではの風景や生きものとの出会いが待っています。
お題の写真を撮ってネイチャーセンターに来館された方には、ちょっとしたプレゼントを差し上げます。

◇日時:2026年9月19日(土)～23日(水) 9:00～17:00

時間中随時(申し込み不要!)

◇所要時間:30分～(すべて回るには1時間半程度)

◇場所:春国岱

◇対象:どなたでも

◇参加費:無料

◇服装・持ち物:歩きやすく汚れてもよい靴、外で活動できる服装(長袖・長ズボンがおすすめ)。双眼鏡があるとより楽しめます。※ネイチャーセンターで長靴や双眼鏡の貸出有

◇参加方法:春国岱ネイチャーセンターまたは春国岱駐車場で特別マップを手に入れてスタートします。

◆ 10/19 ゆるふわボランティア体験

春国岱ネイチャーセンターの自然学習林では、シカに食べられて枯れてしまう樹木が多くあります。樹木を守るため、ボランティアグループ「スंक」のメンバーと樹木に古い漁網を巻く作業を体験してみませんか?

◇日時:2026年10月19日(月)10:00～12:00

◇対象:春国岱ネイチャーセンターでのボランティア活動に興味のある小学生以上の方

◇定員:10名

◇参加費:無料

◇服装・持ち物:野外で活動できる服装・長靴・帽子・軍手・飲み物・タオル・筆記用具

◇申し込み締切:10月18日(日)16時

◆ 10/24 ネイチャー講座

詳細はネイチャーセンターホームページでお知らせします。

募集中!

入会の年齢制限が緩和されました!

ボランティア『スंक』

春国岱ネイチャーセンターでは、施設ボランティアグループ『スंक』で活動してくださる方を随時募集しています。

『スंक』は、ネイチャーセンター周辺の自然を自らが楽しみ、環境保全について学び行動することを目的として活動しています。月に1回(基本的に第3月曜日)の定例会で、自然学習林の巡回や道標・樹名板などの管理を行ったり、市民向けのイベントを企画したりしています。熱いながらもゆるい楽しい集まりです。

ボランティアに興味のある方、定例会の見学ご希望の方は、ネイチャーセンターまでお問合せください。

◆対象:小学生以上(ただし、小中学生は保護者同伴)

◆年会費(ボランティア保険料含む):1,000円

フィールドマナーを守って

自然や生きものが安心して暮らせるように...

- 春国岱の駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは法律で禁止されています
- 観察路からはずれないようにしてください
- 動植物の採取や捕獲はしないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 禁煙にご協力ください
- 野生動物の生息地です。マダニも多く生息しています。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください
- ドローンを飛行される際は、他の利用者や野生生物に配慮をお願いいたします

クイズのこたえ ②⑤。ゲンショウコは^{もうどく}猛毒のトリカブトと若葉の形が似ています。ハンゴンソウはトリカブトと同じ時期に似たような場所に生えています。どちらも^{どく}毒はなく、薬草として使われることがある植物です。

【参考文献】更科ほか、2020. コタン生物記Ⅰ 樹木・雑草篇 新版、青土社。

根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター (入館無料)

〒086-0074 北海道根室市東梅 103 番地

TEL: 0153-25-3047 FAX: 0153-25-8570

Eメール: nemu_nc@marimo.or.jp



HP https://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html

◆開館時間: 9:00～17:00(10月16日は16:30閉館)

◆休館日: 9月2・9・16・24・25・28・29・30日

10月7・13・14・21・28日

◆団体でご利用の方へ (事前予約制・2週間前までにご連絡ください)

自然観察の案内や室内でのレクチャーなどのプログラムをご利用いただけます。

SNSでも最新の自然情報を発信しています!



ラムサール条約湿地
風蓮湖・春国岱

2005年11月登録